

平成28年度 燕市西蒲原郡生活科部 活動報告

部長 佐藤研一郎

1 研究主題 「子どもの思いを大切にした生活科授業の工夫」

2 研究の概要

自ら考え、自ら学ぶ子どもを育てる上で、子どもの思い、考え、願いを中核にした活動を組織する力が求められている。今年度も、授業研究と教材研究の2つを柱として主題に迫ることにした。

3 研究の実際

(1) 第2回部会 平成28年6月1日(水)

実技研修 「草花あそび」

講師：岡部 裕一様(燕市教育委員会社会教育課
子ども体験活動支援センター)



○ 研修の内容

校庭や身の回りによく見られる植物を使った遊びを、講師の先生から紹介していただき、実際に校庭の植物を使って遊んだ。また、「毒がある植物」「トゲやかぶれに注意する植物」など、活動の際に配慮が必要なものについても学んだ。

(2) 第3回部会 平成28年11月30日(水)(会場：燕市立島上小学校)

授業研究 「作ってためして」(2年生)

授業者：平澤 昭子教諭(燕市立島上小学校)

指導者：井浦 順子様(新潟市立笠木小学校 校長)

○ 授業の概要(11時間目/全20時間)

身近にあるものを使って、ゴム・風等の力で動くおもちゃ作りに取り組み、そのおもしろさや不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむ単元である。本時は、



「おもちゃをパワーアップさせよう!」という学習課題のもと、友達と比べたり教え合ったりして、よりよく動くおもちゃ作りを工夫する活動であった。各自が自分のおもちゃ作りへの願いを明確にもち、グループの友達と関わり合いながらおもちゃのパワーアップに没頭する姿が見られた。

4 成果と課題

○ 教材研究では、シロツメクサやヨモギ、ハルジオンなど、身近な植物を使った多様な遊び方を知ることができた。また、講師の先生から「どんな遊び方ができるか考えてみよう」という問いかけをいただき、子どもの視点から植物での遊び方を考え、授業に生かせる研修となった。

○ 授業研究では、子どもの思考がどんどん広がり、一人一人が明確に見通しをもって活動する姿が見られた。それを保障していたのが、適切に材料や場を設定した環境作りや、振り返りカードの取組だった。また、様々な素材を使った「素材遊び」を単元の導入で行ったことで、子どもたちの意欲を高め、時間いっぱい集中して活動することができた。

○ 会員の教職経験は異なるが、子どもの自立を促す生活科の指導力を高めたいという願いは共通であり、そのための研修を今後も実施していく。